

## 第4回南海トラフ巨大地震災害対策等検討部会に対する見解（矢守克也）

## 【議題1 南海トラフ巨大地震による被害想定】

## (1) 津波避難の計算条件

今後、「避難迅速化」と「早期避難率低」との間に、もう一つのケースを設定し、検討を  
してはどうかと考える。

「迅速化」で津波被害ゼロの可能性を示している点は、良いリスク・コミュニケーションだと思う。しかし、「迅速化：発災5分後=100%、発災15分後=0%、津波到達後=0%」という設定は、大阪府の状況を考慮した場合、あまりに理想主義的（過剰な要求）になり過ぎる恐れがある。理由としては、次の2点。

第1に、「5分後に全員が避難開始なんて絶対無理」という声が、たとえば、デパートや地下街の避難対策担当者、高齢者福祉施設の担当者あたりから出ることが予想される。そして、公表する側の思いとは逆に、「そんなきびしい条件をクリアしないと死者ゼロにできないのか、もうあきらめた」という逆効果となる恐れがある。

第2に、高知県や和歌山県の海岸沿いなど、一刻を争う地域と大阪の状況とは異なる。むしろ、60分程度の余裕時間があることを見込んで、何ができるか（しかし、何は絶対してはいけないか）について、想定を受けとった側が考えることができるようなガイドラインとなるデータが望ましいのではないかと。たとえば、多くの人にとって、「何分くらいなら（家族として、施設の責任者として、近所に住む者として）周囲の人の避難を救えるのか」が、現時点での最大の関心事だと考える。

そうだとすれば、たとえば、直接避難は「早期避難率低パターン」と同じく低い、津波後避難は「迅速化パターン」と同様ゼロ、代わりに、ギリギリまで（この場合60分と仮置き）用事（＝救出という用事）をしてから避難する人が多数存在するといったパターンの方が、リアルではないか。つまり、「ぎりぎりまで救援活動パターン：5分後避難=20%、60分後避難=80%、津波到達後避難=0%」というパターンを、「死者（内、津波）=0人」でキープできる、ぎりぎりの分数（これを今は60分と仮置きしている）を教えてもらえると、対策する側にとっては大変ありがたい情報となる。なぜなら、この情報に、浸水高さ予測をプラスすると、「なるほど、60分以内に、すべてのお客さんを3F以上に誘導すればいいんだな」といった具体的目安を入手できるから。（「たとえば、岬町と梅田では時間が異なりますよ」というご意見は、もちろん承知しているつもり。たとえば、梅田駅周囲半径1キロ以内とか、北区でとか、津波到達予想時刻がほぼ同一となる特定地域を設定してのモデル的計算だけでも、十分 **informative** だと思う。）

## (2) 大阪府と内閣府の推計の取り扱い

大阪府と内閣府のどちらの推計が正しいといった議論にしないことが大事である。

被害想定は、条件設定の少しの違いにより、どうしても大きな差が生じてしまうラフな

推計である。このことを、前向きに、つまり、わずかな努力や改善で、事態は相当大きく良き方向へ向かいうるサインとして受けとめるべき。たとえば、大阪府の推計では、火災による死者が激減している点などを、そうした具体例としてとらえ、しっかりと対策を進めることが大切だと考える。もちろん、逆に言えば、ちょっと備えや対策を怠れば、桁が一つ違うくらい被害が大きくなる可能性もあるということでもある。いずれにせよ、「内閣府と大阪府、どっちが正しいんだ」論議は、生産的とは言えないと思われる。

#### 【議題4 大阪府地域防災計画】

網羅性という観点から見ると、次のキーワードについて領域の項目や記述が少し薄い印象を受けるが、事柄の具体性のレベルの違い等は考慮していないため、今回示されている各課題の中で、検討をしていくということであれば、部会長案に対して異議はなし。

(キーワード)

BCP、企業防災、防災教育、自主防災組織、ボランティア、観光、国際、災害弱者、大規模工業地帯、コンビナート系対策、化学物質等、耐震化、木造密集、広域避難（双方向＝大阪府から出て行く方向、大阪府へ入ってくる方向）、パニック（治安）等々